

燃料電池カー科学キット 組み立てガイド

CE

Model No.: FCJJ-11

⚠ 注意

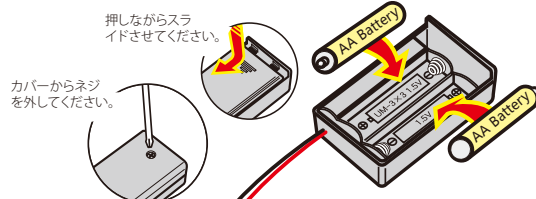
重大なケガ・事故及び製品破損を避けるために:
このキットは12歳以上の方のみを対象にしています。
このマニュアルを読んで安全性について理解している
大人の方と一緒に製品をご使用下さい。
パーツには小さくて飲み込んでしまう可能性があるもの
を含みます。小さなお子様の手が届かない場所に保
管して下さい。
燃料電池は非常に発火性の高いガスを生成します。キ
ット組み立てを始める前に本ガイドの注意書きをよく読
んで理解してください。

燃料電池カー科学キット

組み立てガイド

必要なもの ● 燃料電池カー科学キット本体 ● 単三電池2本 ● 精製水100ml ● ハサミ

- ハサミを使って、キット内の長いゴムホースから4cmの長さのチューブを2本、切り分けて下さい。 赤いピンを4cmのゴムチューブの一方に付け、黒いピンをもう一方の4cmのゴムチューブに取りつけて下さい。残った長いチューブを、等しい長さに2分して下さい。
- ドライバーを使って電池ボックスのカバーからネジを外してください。カバーを押しながらスライドさせて開けてください。カバーを開けるとプラグコードに触れないよう注意して下さい。単三電池を2本指定方向に入れて下さい。カバーを押しながらスライドさせて閉め、ドライバーを使ってしっかりネジを締めてください。

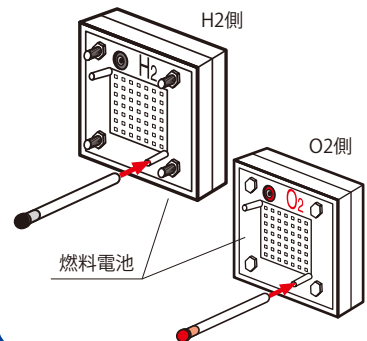


- ※ 電池を入れる前に必ず電池ボックスのスイッチが"off"になっていることを確認してください。
- ※ 注意: プラグコードの先が接触ショートをしていると、電池が過熱し火傷・部品溶融・火災の危険があります。
- ※ メモ: 単三電池は大体4回～5回の使用で消耗します。

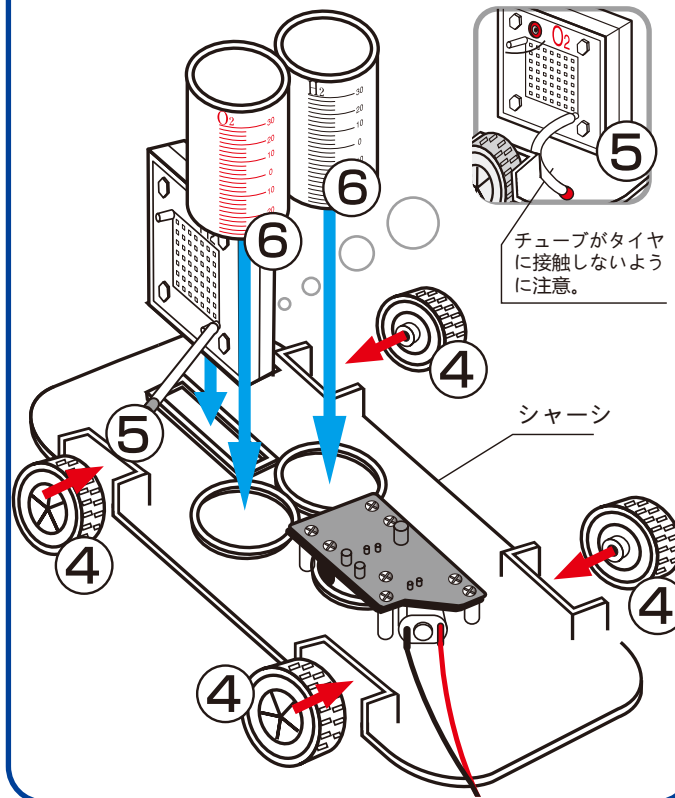
電池ボックスの取り扱い

- 電池の出し入れは大人が行ってください。ドライバーを使って電池ボックスのカバーを持ちながらネジを外してください。ネジを取り外したら電池ボックスを開け、指で電池を取り出してください。電池を入れる際は極性を確認して下さい。(電池ボックスの表示にしたがって、電池のプラス側が"+", マイナス側が"-に合わせるように入れ、ドライバーを使ってしっかりとネジを締め付けてふたを閉めてください。
- 充電非対応の電池を充電しないで下さい。
- 充電用とアルカリ電池、標準(マンガン)電池、新しい電池と古い電池など違う種類の電池は混合して使わず、同じ種類の電池を使ってください。
- 電池ボックスのケーブルはコンセントにつながらないで下さい。
- 電池ボックスの電源端子はショートさせてはいけません。
- 付属品の赤と黒のケーブルはコンセントに差し込まないで下さい。
- 使用済みの電池は電池ボックスから取り出してください。

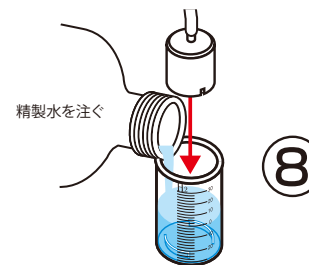
- 燃料電池の"H2"側及び"O2"側の下にある短い吸気ノズルへチューブを奥までしっかり差し込みます。



- 燃料電池カーのシャーシヘタイヤを4個取り付けます。シャーシの側面のピンにカチッというまでタイヤを差し込んでください。
- シャーシの四角形の燃料電池取付枠へ燃料電池をはめ込みます。
- シャーシの円形枠へH2用・O2用シリンダーを取り付けます。

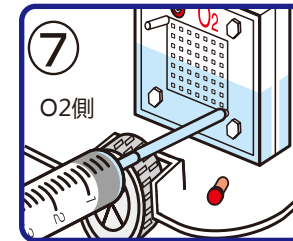


- 最初に精製水を"0"の目盛りまで入れます。H2用O2用シリンダーにH2・O2貯蔵タンクを入れます。その際に貯蔵タンクの切り欠き部をシリンダーの貯蔵タンク固定リムでふさがないように注意して下さい。H2・O2貯蔵タンクにチューブをつないでください。貯蔵タンクの中に空気が残らないよう注意し、精製水を"0"の目盛りまで満たして下さい。



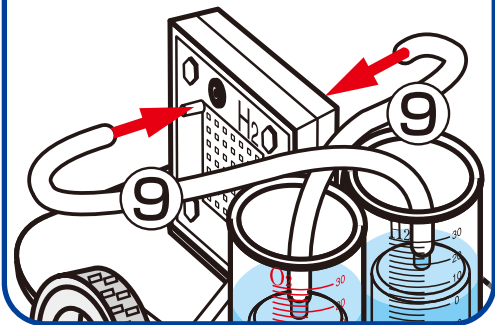
ガスの再生成手順: 燃料電池のノズルにつなされたチューブから小さいプラグを外してください。こうすることで貯蔵タンクの内のガスを抜き水位を"0"の目盛りに戻します。プラグをチューブに再び差し込んでください。再度電気分解を行ってください。

- 燃料電池のO2側に取付けたチューブのキャップを外してください。注射器を使って精製水を燃料電池の約半分くらいまで注入して下さい。注意: 高分子膜はPEM燃料電池の心臓部で、乾燥をきらいます。



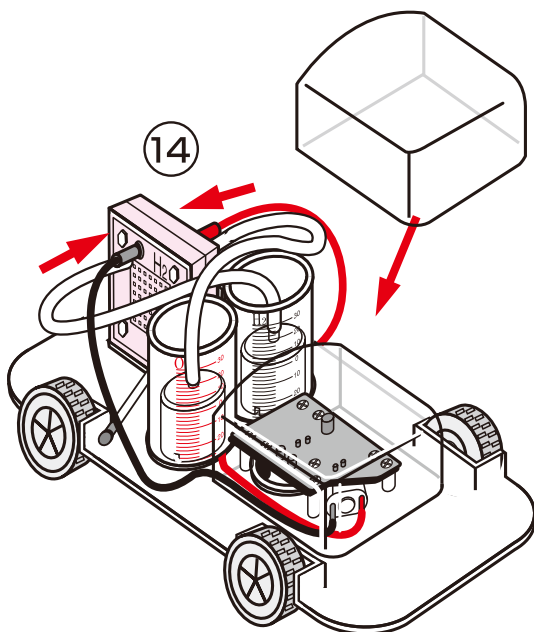
9.

先ほど切ったチューブを貯蔵タンクのノズルにしっかりと差し込み、燃料電池のH₂側とO₂側両方の上部のノズルに図の通り奥までしっかりと差し込んでください。



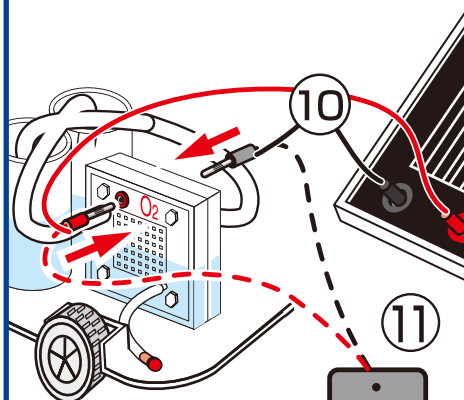
13.

ソーラーパネルについて:ソーラーパネルと燃料電池をつないでいるケーブルを外します。電池ボックスのスイッチを“off”にし、燃料電池のケーブルソケットからケーブルを外します。電気分解を行っている間以外は電池ボックスのスイッチは“off”にしておいてください。



10.

赤と黒の一方のケーブルをソーラーパネルにつなぎ、もう一方を燃料電池につなぎます。



電池ボックス

11.

その他の方法(電池ボックスの利用)
電池ボックスの赤いケーブルを燃料電池の赤いソケットにつなぎ、黒いケーブルを黒いソケットにつなぎます。

電池ボックスのスイッチをONにします。

12.

水の電気分解がはじまり、発生した水素と酸素が各貯蔵タンクへ貯蔵されます。
H₂側の貯蔵タンクから水素があふれ出て、H₂シリンダー内部に気泡が発生するまで待ちください。(約1.5分～2.0分)

14.

ステップ10で燃料電池につないだ赤と黒のケーブルを外し、代わりに車のモーターに付いているケーブルを燃料電池の赤と黒のプラグにつなぎます。ステップ10同様、同じ色のプラグに同じ色のケーブルをつなぐよう注意して下さい。モーターが駆動して車が走り出します。走行時間は約3分～5分です。

燃料電池カー科学キット テクニカルサポート

1. 燃料電池の両側にあるガス出力チューブを外しても水位が下がらない。

解決法:

貯蔵タンクの側面にある穴がふさがれているかどうか確認して下さい。ふさがれている場合、水が穴を通り貯蔵タンクをいっぱいにするまで、貯蔵タンクを回してみてください。

2. 電気分解装置が水素も酸素も生成しない。

解決法:

a. ワイヤーが正しく接続されているかどうか、接続がゆるくないかどうかを確認して下さい。電池ボックスの赤いワイヤーを燃料電池の黒いジャックに接続すると、燃料電池が破損する恐れがあります。

b. 電池ボックスのスイッチがONになっているかどうか確認して下さい。

3. 水の電気分解のスピードが遅くなってきている。

解決法:

a. 燃料電池のO₂側に精製水を加え、5分ほど待ちください。

b. 電池ボックスの古い単三電池を新しい単三電池に取り替えてください。

4. タンク内に水素が残っているにも関わらず、車が停止してしまう。

解決法:

a. ガスを排出し、水の電気分解を4分～5分行ってください。水素ガスチューブと酸素ガスチューブを外し、ガスを排出して下さい。水素貯蔵タンクがいっぱいになるまで再度電気分解を行い、モーターを燃料電池に接続して下さい。それでも解決しない場合は、次のステップに進んでください。

b. 10分ほど電気分解プロセスを続け、残った水を全て使用して下さい。燃料電池から水を抜くため、ガスを排出(パージ)して下さい。水素タンクがいっぱいになるまでもう一度電気分解を行い、その後でモーターを燃料電池に接続して下さい。